

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 米大統領の英語 (3)

(A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

America First「アメリカ第一主義」を唱える Trump 米大統領が Twitter 上での自身の Blog (<Web + log)で連日、次々と書き込む英文は実に特異で、まさにビジネスマンの発想のことが多い。また、彼の話す英語も連日のように耳にするが自信に満ちたメリハリのある語り口のもので、日本語民族の聴覚脳でも処理しやすいはずの部類に入るが、音響的(acoustically)にアメリカ東部の米語であり、年間を通じ快適な気候の西部カリフォルニアなどの生粋の米語 GA(General American)の響きとは異なる。

こういう英音の響きの違いは、その風土での空気中を伝わる物理学的ないわゆる acoustic impedance (音響インピーダンス・音響障害)とも関わっているわけであるが、一般には感知されない。近年、地球規模の気候変動(climate change)が生態系(ecosystem)に変化をもたらしているのは、身近には植物の生育状態などを見れば分かる。植物は大気の状態(気象)の変異に微妙に反応する。動物も同じはずとなる。

地球規模の温暖化により、今年の日本の真夏は観測史上初となる気温が 40℃を超える地域も多くあり猛暑であった(In the middle of this summer Japan was gripped by a deadly heatwave.)が、近年、英音を含め人間という種(ヒト)の言語音の大気中を伝わる響きにも聴覚的に、かつてとは微妙な周波数(Hz)・音圧の違いを個人的には感知するがどうだろう？こういう感知度も成人と幼児の聴覚脳ではまた違うこととなる。

気候変動と言ったが、un-Basic 語 climate は recline, decline, inclination, etc.と同系で、語根部の音素 /klai/, /kli/ は「傾くこと」の原義をもつ。climate は赤道から南北両極への地軸の傾きで変化が起こる気象、天候のことである。なお、Basic 語 weather は wind と同系である。以下、今回も Trump 大統領のツイートの語釈を試みる。

- ① The Fake News Media has been so unfair, and vicious, to my wife and our great First Lady, Melania. During her recovery from surgery they reported everything from near death, to facelift, to left the W.H. (and me) for N.Y. or Virginia, to abuse. All Fake, she is doing really well. (June 6, 2018)

▲トランプ大統領の妻・メラニア夫人は腎臓病で入院し、しばらく姿を見せないことがあった。メディアは彼女の所在をめぐり追いかけた。何かと憶測をよび、生命の危機、整形手術、あるいはホワイトハウスと夫から逃げ出しニューヨークかヴァージニアへ行ったのか？虐待か？などであった。すべて捏造であり虚報で、妻(our great First Ladyと言っている)は退院し、大変元気だと Trump 大統領が言っている内容である。

太線の語 fake (偽の・いんちきの)は、Trump 大統領が好んで頻繁に用いる負(ー)のイメージ語である。発生源は目下は不詳ともされ、ラテン系ではなくギリシャ語を経由しているらしいが、拙著(2016)「松柏社」、第二部、例(27)では PIE etymon の語根音形/FAK/からの Basic 語 **face**, **effect**, etc.と同系として分類した。仮説的ではあるが、原義の「作り出すこと」から来ているとしてよかろう。そう思えてならない。

次の太線語 lady は Basic 本体の 850 語中には同系語(paronym)は見あたらないがプラス α Basic 語 *lord* と同系(paronymic)で、原義は「食事用にパンをつくる女性」である。un-Basic 語の loaf (パンの一塊)も同系である。

3つ目の下線の to の後ろで to left となっている太線語 left < leave は、「去ること」の意味より先に「残すこと、残っていること」の意味があった。Basic 語の **living**、プラス α Basic 語の **life** と同系である。文中の left the W.H. (and me) for N.Y or Virginia 「ホワイトハウス（また私）を離れてニューヨークかヴァージニアへ向かった」とは、「ホワイトハウス（また私）を残していった」ということになる [left < leave に関しては同上拙著、第二部、例(104)でも解説している]。

文中の下線語は一對となっていて from W, to X, to Y, to Z で「W から X, Y, Z へ」となるが、移動事象(motion event)的には W が起点(source)、X, Y が経路(path)、そして Z が着点(goal)となる。こういう思考法に慣れると英語が滑らかになる。ここでは Y が to left と to の後ろで過去形動詞の left であるが、この言い方も略式英語ではありうる。

最後の太線語 abuse (虐待) は Basic 語 **use** と同系で、{ab (= away) + use} である。

② Looking forward to seeing my friend Prime Minister @AbeShinzo of Japan at noon. Will be discussing North Korea and trade. (June 6, 2018)

▲英文として何でもないような例も、一語一語が根っから分かるかどうかは別問題となる。この例のような主語を略す英文スタイルに早めに慣れてしまうとよい。現実の英語では主語の人称・指示代名詞 I, you, he, she, they, it, we などあまり問題でもないことが多い。日本では正式な英語ばかりに時間をかけ、いつまでたっても本来の英語が手早く身につかない面がある。正式 ⇒ 略式への思考は意外に難しい。略式 ⇒ 正式への思考は楽に移行できる。年少から年長へ向けての年齢的な言語的成長過程をみても分かる。

ニュースとしては少し前のものにはなるが、6月12日に予定された史上初の米朝首脳会談の1週間前、安倍首相が訪米するのを受けて Trump 大統領が心待ちしているというもので、北朝鮮問題と貿易問題を話し合う予定だという内容である。

日本側は拉致問題に関心があるが、Trump 大統領が人権問題に触れてくれるかどうか懸念した。下線部で彼は安倍首相のことを my friend と言っているが、同盟国としてフェアな関係となり、裏返すと北朝鮮問題でも経済的負担が日本側に跳ね返ってくる。Trump 大統領は状況次第で頻繁に対応を変える。

太線の語 minister は「大臣」であるが Basic 語 **minute** と同系で、元々は「小さいこと」の意味である。古くは単に「召使」の意味でもあった。PIE etymon の語根音形は/MEI/ (MIN/)とされ、un-Basic 語 administer {ad (= to) + minister (= servant)}はもちろんのこと、menu (メニュー)、mean (卑しい)、mince (細かく刻んだミンチ肉) などとも同系である [同上拙著、第二部、例(94)で他の例も一括し扱っている]。

次の太線の語 noon は Basic の範疇語 **nine** と同系である。noon (正午) は「夜明けの3時から数えて9番目の時間」のことである。

最後の太線の Basic 語 **trade** は PIE etymon /DRA/ 「引っ張ること」、/DER/ 「踏んで歩くこと」が発生源とされ、前者からは Basic 語 **drawer, driving, attraction, etc.**、後者からはプラス α Basic 語 **travel, trap** (不用物除去装置・わな)、un-Basic 語 **trip, traffic, tread, etc.** が同系語となる。有声音[d] → 無声音[t]と音変化もした。trade (貿易) とは「荷物を引っ張ること」→「足を踏んで歩くこと」→「移動の道」ということで、その道が水路・航路などとなり、さらにその道を通っての「交易、貿易」となった [やはりこのあたりも同上拙著、第二部、例(7), (89)ですべて確認している]。

本連載で示唆する内容は、いわゆる英語の「教授法」としても適用できるわけで、可能な限り同系語を近づけて一括的に見ていく手法(paronymic viewing of English words)が手早く、要領がよいはずであるし、理にもかなっている。各語の意味的結びつきを抜きにした扱いでは、本当にはいつまでたっても身にはつかない。

いずれにせよ、トランプ大統領の英語を一素材に各語の根っからの意味を音声と語形から求め、同時に背景に隠れている同系の **Basic** 語を文中で見抜いていく本連載でのテーマ趣旨は、英文の深読み(deep reading)・深聴き(deep hearing)につながる。原音(**root sound**)と原義(**root sense**)の一体化による英文の理解法ということであるが、その重要性に気づいたときには遅すぎた、とならないよう注目されてよい

本連載での文例を通して辞典(事典)的な拙著(同上)での総括性を検証しているのであるが、すでにいくつもの例で見ているように、まるですべてを包含すると思える。厳選した発生源としての 150 個の PIE etymon とそのいくつもの派生 **Basic** 語から、英語の約 10,000 語の原義がやはり解き明かせられそうである。これは別な言い方をすれば、極限まで詰めていくと理屈的には **Basic** 語本体の 850 語中のわずか 150 語からだけでも、約 10,000 語の原義の把握が可能なことにさえなる。